

厚生文教常任委員会視察研修【美唄市視察】

日 時 平成29年11月9日(木) 10:00~11:38

出席議員 委員長：木村好孝 副委員長：北村光明

委員：大谷昭宣、原紀夫、奥秋康子、安田薫、

議長：加来良明

事務局 事務局長：佐藤秀美 総務係長：宇都宮学

執行側 子育て支援課長：逢坂登

訓子府町出席者

議会：濱砂議会事務局次長

町：佐藤こども未来課長

ピパの子保育園：本嶋園長

---

---

議 件 所管事務調査「保育施設の整備について」

1. 美唄市立ピパの子保育園の建設及び運営状況について（ピパの子保育園）

(1) 開会・歓迎挨拶 10:00~10:03

濱砂次長：おはようございます。本日は清水町議会厚生文教常任委員会の行政視察で木村委員長始めとする委員の皆様、加来議長にも美唄市にお越しいただき、誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただき議会事務局次長の濱砂と申します。よろしくお祈いします。なお、本日視察に際して地元のお土産ありがとうございます。また、視察終了後には昼食を本市で取っていただき重ねて厚くお礼を申し上げます。

本来ですと本市議会の小関議長から歓迎のご挨拶を申し上げるところですが、本日全国議長会の用務で出張中ですので。また、土井副議長においても道外に出掛けていて挨拶に参ることができないので、この点お許しをいただきたいと思います。

それでは若干時間をいただき、美唄市の概要を紹介させていただきたいと思う。

美唄市は札幌市と滝川市のほぼ中間に位置し、市内を南北に国道12号線と高速道央道、JR函館本線が通る交通の要所となっている。昭和25年に市制が施行され、当時は三井・三菱といった大規模な炭鉱のほか、中小の炭鉱も多数あり道内有数の石炭の町として栄え、昭和31年のピーク時には9万2千人を超える人口だった。しかしその後、エネルギーの主役が石炭から石油へ移行して、昭和38年以降次々と炭鉱が閉山となり急激な人口減と共に主要産業も炭鉱から農業へと移行し現在に至っている。今年10月末現在の人口は22,274人と減少し、高齢化率は40.7%となっている状況である。市の財政は非常に厳しい状況にあり、自主財源が24%と乏しい本市については、地方交付税に依存する部分が多く交付税の動向如何により今後についても非常に厳しい財政状況が見込まれている。基幹産業である農業については、国内でも有数の穀倉地帯であり、米・麦・大豆のほかグリーンアスパラや日本一の収穫量を誇るハスカップなど、安全安心な農産物を産出すると共に地産地消や農商工連携による特産品の開発など、産業の振興にも取り組んでいる。観光資源は廃校を活用した安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄と毎年春と秋に約6万羽以上のマガンが飛来するラムサール条約の登録湿地である宮島沼には道内外からたくさんの観光客の方に訪れていただいている。このほか、温泉施設のピパの湯ゆーりん館やテレビでも放送された袋入り焼きそば、名物の美唄焼き鳥やとりめしなどおいしい食材があるので、機会があったらぜひご利用いただきたいと思います。

(2) 清水町議会挨拶 10:03~10:06

濱砂次長：続いて大変恐縮ですが、清水町議会厚生文教委員会木村委員長からご挨拶をいただきたいと思います。

委員長(木村好孝)：おはようございます。お忙しい中私達の行政調査を受けていただき本当にありがとうございました。感謝申し上げます。私どもの町には清水市街地に2つある保育所、さらに1つの幼稚園、市外地から外れた御影という地区に1つの保育所がある。市街地の2つの保育所の統合を抱えて、平成32年度に200名規模の定員施設の開設に向けて平

成 29 年から 31 年までの 3 年間で事業期間として、幼稚園も含めた認定こども園の開設に向けて現在環境整備を開始したところ。御影地区の保育所については、平成 31 年に認定こども園に移行する方向で現在取り組んでいる。貴市の先進的な保育園の取り組みを深く学びながら、ぜひとも我が町の今後の保育園の開設に向けて検討させていただきたいので、ぜひご指導をよろしくお願ひしたいと思う。

(3) 説明員の紹介 10:06~10:07

美唄市：出席者紹介

(4) 調査事項 10:07~11:12

【美唄市立ピパの子保育園の建設状況】

佐藤こども未来課長：本日はようこそいらっしゃいました。美唄市立ピパの子保育園の建設状況について説明をさせていただく。それでは資料をお開きください。

1 頁目はピパの子保育園整備の経過について。美唄市にびばい未来交響プラン（第 6 期美唄市総合計画）、世代育成支援美唄市行動計画「びばいっこすくすくプラン」があるが、老朽化している市内の保育所の整備検討が掲げられている。市内 3 つの公立保育所の保護者の方からも老朽化に伴う建設について多くの要望が寄せられた。少子化の影響で本市においても入所児童数がどんどん減ってきているが、3 歳未満児の保育ニーズが依然として高く推移しており、それらのニーズを確保することは既存の 3 つの老朽化した建物の状態からは難しいということで、建設の必要性や緊急性のある課題となった。

保育環境整備を計画的に進めるため平成 25 年度に市内の保育所の保育士を中心としたワーキングチームを立ち上げ、保育所の課題の整理や少子化への対応、保育施設の建設に向けての検討を行った。その中で保育所の統合実施と園舎の建設を方向付け、園舎については 1 番新築が望ましいことではあるが、駅周辺で利便性の良い公共施設を再利用することで、建築費用の軽減や閉鎖されている建物の有効活用を行い、保育ニーズに対応できる環境整備を実施することとした。

中央保育所は定員 60 名で、建物の築年数が 44 年、西保育所は定員 45 名で築年数が 41 年、東保育所は定員 45 名で築年数は 39 年と、ほとんどが 40 年を経過している建物である。それら 3 つの保育所を統合して定員 150 名のピパの子保育園として、昨年 4 月 1 日に開園した。

2 頁目をお開きください。住民意見の集約だが、保育所の統合については公立保育所に入っている保護者の方に対してアンケート調査を実施し意見を求めた。アンケート結果については統合に賛成・反対というのは非常に拮抗した数字であり、具体的には賛成が 55%、反対が 45%という保護者の意見があった。保育施設の統合先の地域についてもアンケートを行ったが、1 か所に統合する場合は駅周辺を含めた東地域がいいという比率が高く出ており、東地域に子育て世帯が多いことや勤務先や家が東地区にあるためと思われる。反対された意見の中には、保育所が 1 つになることで総体の定員数が削減されるのではないかという心配もあった。保護者の方が送迎されるので、送迎の利便性が求められているのがアンケート結果から読み取れた。実際には賛成・反対の拮抗した数字ではあったが、平成元年に開設の北海道中央コンピューターカレッジ（情報処理技能者養成施設）が平成 27 年 3 月末で閉校するというので、市としては安全安心な市内の保育施設の拠点ということでこの建物を使って保育園建設することに決定した。

この建物へ移るにあたって鉄筋コンクリート造になっているので、耐震性や耐火性を備えた保育施設が提供できる。また、ピパの子保育園は全体で 150 名の定員となっているが、保育ニーズの高い 1・2 歳児の定員枠について、3 つに分かれていた保育所の定員からは 8 名多く定員を設定することにした。市のほぼ中央部に位置しアクセスしやすいので、この施設を活用して保育園建設に至った。

建築概要については、構造は鉄筋コンクリート造。階数は 3 階建。敷地面積は 9,114.97 m<sup>2</sup>。延床面積の合計は 2,076.11 m<sup>2</sup>で、1・2・3 階は記載のとおり面積になっている。新たに施設を改修して保育園を造るにあたり、保育環境の整備として①～⑥の 6 点について新たに提示している。①防犯・防災対策ということで、防犯カメラを玄関・各部屋・廊下にも設置。②感染症対策や体調管理面を充実し、安定した保育環境を提供するため 0 歳児から 2 歳児の保育室、3・4・5 歳児のお昼寝をする部屋として使っている 2 階

交流ホールに空調設備を設置。③幼児期の教育・保育に必要な備品、遊具の整備、屋外大型遊具を設置。④保護者と保育士が面談する相談室を設けた。⑤安全安心な給食提供のため1階に調理する厨房があるが、調理員専用のトイレを調理室内に設置し、また厨房の備品は新規購入し、大規模な給食の効率化と調理室の衛生面の配慮から、厨房の中に空調設備を設置。⑥児童の身体的機能向上のため、3階には全児が集合できる遊戯室の整備。

次に平面計画・空間構成ということで建築基準についてだが、必要な部屋については保育園設置基準を基に計画をしており、広い窓から日が差し込み、用途によっては開放できる可動式壁で明るく開放的な保育室を設置している。また、木育の一環として木のぬくもりを感じるやさしく落ち着ける内装ということで、木をふんだんに使った内装となっている。

次に安全・防犯については、①2階以上に保育室があるので、防火設備・避難器具を新たに設置している。避難用の滑り台も新設している。②以前はコンピューターカレッジという専門学校のかたちを取っていたので、階段には児童も安全に使用できる手すりを設置するとともに、段差も子供用に低い高さに改修している。③児童が通常立ち入る部分にある柱、建具、棚等に面取りを施している。④児童の安全を考えたドアの指詰め防止金具を取り付けている。⑦保育園内での感染防止のため、手洗い設備には温水機能を設置。保育園の環境衛生面対策ということで、古い建物の時は冬場には子ども達は冷たい水で手洗いをしていたが、新しい建物では自動温水機能を整備している。⑧は先ほど申し上げた防犯カメラ。玄関と各階、各部屋に設置し、長時間の記録も可能となっており、防犯性を高めている。また、防犯カメラについては職員室の園長席の後ろのほうにモニターがあり、そこで見ることもでき録画も撮れるようになっている。

環境負担軽減ということで、照明については教室・廊下でLEDを採用し、超寿命・省電力を実現している。

次に4頁をお開きください。こちらについては、平成27年度に施設改修に取り組んでおり、それにかかる費用一覧を記載している。予算科目と内訳、金額、財源内訳は記載のとおり。地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）を活用して、大型遊具や厨房機器のリース、備品購入に充てている。また、工事請負費については建築・電気・機械・屋外遊戯場等整備工事は全て児童福祉施設整備債を充てている。平成27年度を合計すると440,403,153円になるが、備考欄で使用料及び賃借料については、5年リースということで契約していて、28年度から31年度まで4年間今後継続することになり、その合計金額として約5千万円を予定している。また、この下に載っているのは改修の実施設計委託料と屋外遊戯場等実施設計委託料で、これは平成26年度にがんばる地域交付金補助金を活用して、2,100万円ほどの委託料を支出している。

頁をめくっていただくと、施設平面図と屋外平面図、1番最後に保育園を改修した工事概要ということで、1・2・3階の各部屋の面積・定員数・主な設備等を付けている。下のほうには屋外遊戯場等の設備ということで、運動場・遊具・砂場・駐車場、これらも合わせて整備した。

以上、建設の状況について説明を終わらせていただき、ご質問等を受けたあと、運営の状況を園長から説明させていただきたいと思う。

濱砂次長：ここまでで何かあるか。

原 委員：昨日、オホーツク管内の訓子府町にお邪魔して、こちらの4億円の3倍をかけた素晴らしい施設をしっかりと見てきた。今日はこちらで3階建てというのはどういう保育所なのかと期待をしていた。新築だという認識をしていたが、コンピューターカレッジを改修して、なるほどそれで4億円だったのかとわかった。

運営していく中で1・2・3階を年齢ごとに分けて運営していると思ったが、ここ（3階）は遊戯室で、1・2階は保育関係を集中的にやられている。運動関係だけはここでやられているということなのか。保育所に模様替えをするに際して、1番子どもに合った施設にするためにどうするかと、保育士関係を含めて相当綿密に連携を取り要望を受け入れしっかりとこの建物に反映させているが、1番強調したいところはどこか。

A : 大人の施設だったのを子どもの施設に変えるためには、先ほど言ったように階段が一つある。外側の窓や壁は一切手がつけていない。訓子府町などはそうだと思うが、普通であれば、クラスの部屋のベランダから外へ出て行って遊びに行けるが、ここはそ

れができない。改修では躯体をぶち抜いてベランダを造ることができないと最初に言われており、保育士たちの中では保育園として成り立つだろうか、いざという時に子ども達が逃げたり、外に遊びに行く時でも、いちいち玄関を通らなければいけないなどいろいろ考えたが、実際にやってみてそれは全然問題なかった。全員が外に逃げるのも4分もかからない。やってみるのと想像しているのでは大違いだなと。あとは木のぬくもり感を子どもの施設として出したいという思いがあった。今までのような大人のコンピューターばかり並んでいた教室があり、それをどうにか明るい雰囲気でも木のぬくもりのある保育園にしたいという思いはあった。それを建築とは相当協議した結果、我々が思っていた以上のものになっているので驚いている。建築のほうでも、壁が白くて明るさと腰壁なども考えていただいた。暖房も安全なもの、とにかく安全・安心を売りというか保育園はそうでなくてははいけない。1番安心・安全な建物である。ここは耐震化がきちんとされているのでそういう意味では何が起きても1番安心な建物。美唄中探しても1番安心なところではあるので、今までと比べると本当に何が起きて地震が来ようとも安心している。外に逃げるよりはここにいたほうが1番安心であるという建物になっている。まずそこが1番だと思っている。

原 委員：避難経路にらせん滑り台があった。あれは日頃から園児は好きだと思うが、避難をするよりも遊び感覚で上から下まで滑らせてあげるとか、避難の時もすぐに生かせる利便性があるのかという気がするが、そういうことはされているのか。

A : 普段は絶対に使わない。やはり緊張感を持つ必要がある。避難は遊びではないので、避難訓練になったら子ども達は、今は避難訓練だと一言もしゃべらず降りていく。普段は遊び感覚では絶対に使わない。

原 委員：怖がって滑るのを嫌と抵抗する子もいるのか。

A : それはない。毎月1回は避難訓練をしていて年に最低でも2回は滑り台を使うが、怖がる子はほとんどいない。避難するという意識でいるので、怖がるというよりも真剣な顔になる。

原 委員：これが先ほど言われたように4分間で避難できるというのにつながっているのか。

A : そのとおり。やってみるのと自分達が心配しているのとは大違い。

原 委員：財源の関係で、こういうものを建てる時は、なかなか補助金も含めてお金の出場所がない。昨日も訓子府町で尋ねたら、町長があちこち出向いて大変苦労して捻出していた。こちらは、地方創生先行型の交付金を活用しているようだが、これは難しくなく交付してもらえるものなのか。

A : 地方創生先行型については、備品を買う分とリースについて、国のほうに申請をして交付決定を受けて実施になっている。

北村委員：説明にもあったが、住民のアンケートを取る中で反対の方が45%、送迎に関わる利便性の問題がということがあったので、そこら辺はどのように工夫されたのか。現状的には今はどうなのか。

A : 反対意見が45%あったが、反対された中には3つの保育所が1つになることで枠が狭まるのではないかと考えた方がいた。送迎の利便性というのは今まで西側と東側のどれかあったので、中央の方だと東側になると遠くなるというイメージを持っていたと思うが、駅周辺は美唄で言えば中央の位置でどちらにも偏らず真ん中というような位置にある。送迎については中間点というところで場所的にはここに落ち着いた。私どもは閉校後の建物をどうやって活用するかは非常に悩んだ。どういう使い方をしたらいいか当時いろいろ議論したが、やはり市内でそれぞれ3か所の保育所が40年経過して、本当に木造の古い建物であったので1か所新築でできれば1番良いのかも知れないが、財源の問題もあるし、今ある建物を改修して有効活用しようという判断になった。

北村委員：3か所の保育所を統合して1か所にする時に、幼保連携の施設という考え方はなかったのか。

A : 幼稚園は美唄市内に公立1か所、私立が2か所ある。平成25年3月まで南美唄という地域に公立の幼稚園が1か所あったが閉園し、同じ地域にある保育所を保育所型認定こども園として開園した。認定こども園はそういうかたちでスタートしているので、今回は残り3つの公立の保育所（中央・東・西）を1つ統合し、ピパの子保育園とした。

北村委員：保護者において、こども園に入れるとか、この保育園に入れるかという選択の迷いなどはあるのか。

A : 認定こども園がある場所が南美唄という街中から離れた地域にあるので、皆さんが選ぶ時にはどちらかにあるロケーションを選ぶ。

逢坂子育て支援課長：3階建てということで、現場の保育士たちの反応はどうだったのか。もし、うちの町でやるとしたらかなり反対があるかなと感じるが、その辺はどうだったのか。どう説得していったのか。

A : 反対というよりも、戸惑いがすごくあった。今まで子ども達を連れて階段を上がる・下りることをしていないので、どれだけ階段が危ないかなど早くから3か所の保育士達が集まって会議をしていた。時間があれば集まって何度も何度も、例えば保育理念をどうしよう、目標をどうしよう、もう前を向いていたので反対する考えよりもやるにあたってどうしていくかと考えていた。皆で最初からやるという思いで話し合いが進められていたので、反対するとか後ろに向く考えは皆なかった。

奥秋委員：以前、大人が使っていた階段だが、今上ってきたところは子どもの歩幅で歩きやすい感じだが、改修するときにも階段をある程度改修したのか。

A : 段差を低くすることはやった。

奥秋委員：階段の上り下りは未満児は危険な部分もあるが、保育士達が着いて指導してくれるとそれなりに学習ができる部分かと思う。怪我をすることは1回もなかったか。

A : 最初オープンして4・5・6月くらいまでは、ほとんど上に上がってくることはなかった。私達も子ども達を階段で上げるのはとんでもないことと思っていたが、6月の運動会を外とする予定であったが、たまたま天気が悪くて中とするしかなくなり、もし中とするのだったらと3階で練習をしていた。そのために何度か3階まで上がる練習を始めたが、全然危なくなかった。子ども達すごい。これから見ていただければわかるが、手すりが赤と白の2段があり、「赤いの持つんだよ、白いの持つんだよ」と言う赤ちゃんを持つし、未満児もちゃんとはいはいしながら上るし全く危なくなかった。我々が拍子抜けしたくらいに子ども達の学習能力が高く、大人のほうが臆病だったのかなと思っている。ただ、怪我をしないかすると、我々が保育中に怪我をすることはないが、親が迎えに来たときに親が中に入って部屋まで迎えに来たり、朝も部屋まで送る際に、親がいると子ども達が好き放題やってしまう。親がいる側でちょっと危ないことが何度かあったが、我々が保育中には子ども達がふざけて階段を上ることは全くなかったのが気にもしていなかったが、大怪我した例はない。外に出てもそうだが、駐車場まで行くところ、子ども達が外で遊ぶ時は全然危なくないが、親と一緒に出て行く時に飛び出すとか、なぜかそこで危険性が高まるのがすごくある。指導が必要なのは親と一緒にいる時。

委員長 : できるということを見せたいのか甘えているのか。

A : 保育中は危ないことしないのに、いきなり親の前でやってしまう。

加来議長：使用料及び賃貸料は平成28年～31年まで4年間ということだが、この建物の耐用年数とかも考えて4年間という契約か。その後また賃貸料を見直すとかも含めてのことか。

A : 5年間のリース契約になるが、5年間で支払いが終わった後は買取というかたちで組んでいる。いっぺんには払えないので。

加来議長：建物についての質疑はよろしいか。次の運営についてお願いします。

#### 【美唄市立ピパの子保育園の運営状況と保育料】

本嶋園長：(資料に基づき説明)。基本理念については、3園を1つにするためにどうするかという話し合いを行った。それまで3か所の公立の保育所では全て同じ理念を持ってやっていたので、引き続き同じ理念の下でやっていこうと「子ども一人一人を大切に、保護者から信頼され地域に愛される保育園を目指します」となった。

入所状況は、11月1日現在では128名の子ども達がいる。ご覧いただくとわかると思うが、3歳未満の乳児・1歳児・2歳児はほとんど定員に達している状況。3歳以上になると少し定員には満たないが、市内には幼稚園もあり受け皿が3歳以上になると広がるので、そこを利用されたりしている。入所率は85.3%となっている。

職員体制は、園長1名、副園長1名、保育士長1名、主任保育士5名、保育士15名。担任は主任保育士・保育士の合計20名の保育士が6クラスの担任になっている。栄養士は管理栄養士1名、これは平成29年度より配置されている。公務補が1名。調理員は嘱託調理員1名、臨時調理員2名、3か所から1名ずつが集まり3名の調理員でやっている。

事務職は正規職員1名、嘱託職員1名。今まで各保育所に事務職はいなかったが、1つの大きな保育園になり事務職も入った。職員の合計は30名。副園長と保育士長は保育士の資格を持っているので、フリーの保育士という立場でも仕事をさせていただいている。保育時間は、7時半から19時半まで行っている。そのうちの18時半から19時半の1時間が延長保育になっている。短時間保育は、保育標準時間のうち8時間以内。

保育料に関しては別表のようになっている。今年度4月1日から、多子世帯における保護者の経済的負担の軽減を図るため、第2子以降で3歳未満児童の保育料を補助する事業を実施している。

一時保育は、今まで3保育所があった時も行っていたが、引き続きピパの子保育園でも一時保育をしている。一時保育は満1歳から受けることができ、乳児は受けていない。保育料表は別紙に記載している。

給食・食育の状況としては、給食はできる限り地元の食材を使った自園給食。美唄の基幹産業は農業なので、おいしいお米も野菜も豊富にあり、できる限り美唄のものを使っている。お米も減農薬でつくっているところがあり、そこのお米を使うようにしている。食育に関しては、食育グループをつくり、栄養士と一緒に活動している。例えば、5歳児クラスでは保護者を呼んで一緒にクッキングをすとか、保護者の方にこんな給食を食べているというのを見ていただこうと、12月に5歳児クラスの試食会を行っているし、食育のお便りも発行している。

ピパの子保育園の特色としては、1つ目は「年齢別保育により子どもの心身の発達状況に応じた適切な保育」。3園あったときは、どこの保育所も未満児クラスと3歳児クラスと4・5歳クラスと混合の3クラスばかりだった。ピパの子保育園になるときに、我々は年齢別保育をしたいので6クラスを絶対つくってほしいと強く強要望して、年齢別のクラスにさせていただいた。2つ目は「フェイスブックを活用した情報発信」。ほとんど毎日更新している。日々の保育のことを担当の者がいろいろ発信して、うちの保育園に関係ない人達でも結構見いただいているようで、「見ましたよ」といろいろなところで声をかけていただいている。保育園では何をやっているのか、子ども達がただ毎日遊んでいるだけの施設ではないということもPRできていると思っている。3つ目は「幼児期からの運動支援事業の取り組み」。アクティブチャイルドプログラムというものに取り組んでいる。サッカー教室もプロの先生を呼んでやっている。体育教室もプロの先生を呼んでやっている。4つ目は「大型スクリーンを使った視覚や聴覚に訴えた保育」。私の後ろにある大型スクリーンで子ども達にいろいろ見せたりする。先日は生活発表会がこのホールであり、保護者の方に来ていただき1番最初にこの大型スクリーンで日々の子ども達の様子を見ていただいてから発表会が始まる。そうすると保護者たちは見る間に気持ちがちょっと落ち着いて、全体が静かになって発表会がスタートするという良い効果があった。5つ目は「ALTによる英会話教室」。英語の先生に4・5歳クラスを担当していただき、月に1回英会話教室をしている。6つ目の「花育」は植物を育てることで心豊かな人間形成に役立つということで職員が花育グループをつくり、種まき・水やり・草取り・収穫をする。例えばひまわりの種やコスモスの種などを先日子ども達が収穫をした。また春になったらその種を蒔いてまた咲かすつつなぐ保育を実践している。7つ目は「地域との連携」。今日も5歳児クラスがバスに乗って老人施設へ訪問して遊びに行っている。近くに私立の幼稚園があり、ここに保育園ができたことによって交流ができるようになった。今まではほとんど幼稚園と交流はしていなかったが、こういう広い部屋もできたので、昨日も幼稚園の子どもたちを呼んでここで4歳児クラスだけで交流して遊んだ。大きくなったことや町の真ん中に建ったことで、いろいろなところとの交流がすごく増えた。小学校とも交流をしていて、今週の火曜日に小学校に遊びに行った。来週の月曜日にも小学校に遊びに行く。2つ大きな小学校があり、来年学校に行く子ども達がスムーズに学校に行けるように遊びに行き、学校の様子を見てプチ授業体験をして帰ってくることをした。中学校・高校とも職場体験に来て、各中学校が遊びにきたら今度我々が中学校に遊びに行くことも交流としてやっている。

せっかくスクリーンがあるので、日頃の様子を見ていただければと思うので、ちょっと準備させていただく。

(スクリーンで説明)。これが園舎で、左上のマークがうちのピパの子保育園のマークになっている。

これは4月にオープンしたときの開園式の模様。あと外に固定遊具がある。大きいプールができたので、上のクラス3・4・5歳が主に大きいプールで、左下の小さいプールが0・1・2歳の子も達が使っている。

砂場だが、上にテントを張って日よけをしている。テントもオープン時に寄贈していただいた。

これは近所の公園へ遊びに行っている様子。町の真ん中に来たことによって、あちこち公園が近くにあり行けるようになった。いろいろな公園に行っている。これはカートに入ってお散歩をしている。これは落ち葉拾いをして、落ち葉でいろいろなものを作っている。秋の制作になる。

右側が園庭になり、左側は道路を挟んで向かいに駐車場を持っている。駐車場に雪を全部持って行って雪山を造り、その山で子ども達が遊んでいるところ。

これが厨房。厨房はとても狭いが機械が全部入り、食洗器もあるしスチームコンベクションもあり、できる限り一度に大量の調理ができる設備をつくっていただいた。3人の調理員で何とかやっている。アレルギーのお子さんもいらっしゃる。アレルギーだからといって保育をしませんということにはならないので、できる限りの対応はしている。ただ、できないことはできないと言っておかずを一品持ってきていただいたり、重いお子さんとアナフィラキシーを起こすお子さんも受けておりエピペンを持ってきていただいている。十分に注意している。

右上の給食だが、お味噌汁は塩分調節がきちんとされ、多分大人の方が飲むと薄いと思うくらいのもの。左側は切り干し大根だと思うが、子ども達結構好きで食べている。多分、おうちでは食べないと思う。うちの畑でいろいろつくり、きゅうりも植えて日に1本できるかなというくらいなので、その1本をクラス皆でちぎって塩をつけて食べた。嬉しそうだった。やっぱり自分達で育てたものだと、普段きゅうり好きじゃない子もきちんと食べていた。

食育グループは職員が中心となって活動して、栄養士が出ているが、これは農家さんからいただいたとうきび。子ども達が自分達でむき、ひげも取り、調理さんに茹でてくださいと渡す。最初から切られたただのとうきびではなく、こういう状態がとうきびだよと見せることなどで食育になる。

これはクッキングをしたシーン。保護者の方が来てカレーをつくった。じゃがいもを収穫したので、そのジャガイモを使った。子ども達はカレーが大好きで何杯もおかわりしていた。やっぱり自分達がつくったじゃがいもが入っていることと、自分達が切ったものということで、すごく食に対して気持ちが入っている。

これは、ACP活動という運動遊び。どこの保育園でも運動遊びはするが、例えば投げるといふ運動などを遊びの中にきちんと取り入れていく。ただ遊んでいるだけではなく鍛えるための遊びということで、保育士が頭の中できちんと計画を立て、子ども達に提供している遊び。この子達は3歳児。これは、2階のホールでこの下のホールになる。雑巾がけをしている。皆必死で競争している。でも、最初のうちは全くできなかった。前へ進まなかった。何度もやっているのがゲームになっているが、今時の子ども達は雑巾がけリレーをするよと雑巾を持たせても全く前へは進まない状態。足腰が少し弱いというか慣れていない運動なので。これもACP活動の一つで、鬼を追いかけて行って鬼が着くと一番端が出て行く、これ結構頭使う。追いかけて行って着いた次の子が出る。ぼんやりしていたらいけないし、考えないと鬼に掴まってしまう。

これは小学校に行った時のもの。小学校で小学生のお兄ちゃんたちと一緒に交流をしているシーン。青い帽子がうちの子も達で、白や赤が小学生。

右側のマリーゴールドは市立美唄病院の花壇に花植えに行き、行ったのが春先でしばらくしてからこのように写生をしに行き、花を描いてその絵を病院のホールに飾っていただくなどいろいろ交流をしている。公園があり、そこの桜の植樹に行ってきた。去年も行って今年も行ってきた。先日、ひまわりの種を採ってまた来年植えようと楽しみにしている。採った花は自分達で生け花のようにして、自分達でつくった花瓶に生けてお部屋に飾っていた。これは病院に行った時のもの。種を植えているところと種を採っているところ。夏場は花がこのように咲いており、「ぞう組」と看板がついているが「ぞう組」が水やりをしてきれいにしましょうとクラスごとで担当している。

これは保健活動といい、職員が食育グループと花育グループと保健グループに分かれて

活動しており、子ども達にこうやって正しく使いましようとして教えている。衛生面や食育の研修をして、もし子どもが吐いたら処理はこう行うなど、毎年保健所のほうで研修がある。ただ、施設から1人しか参加できないので、誰か1人が代表で行って持って帰ってきて、その人が皆に研修をする。保健グループが中心となってやり、何が起きても誰でもできるように何回も研修を行っている。

これは主な行事で、先日発表会があり看板が玄関にある。一人ひとりが主役となっている。

左上と右下が先日うちの5歳児と近くの幼稚園の5歳児がサッカーの試合をしたもの。毎月サッカー教室をやっていて、向こうの幼稚園もサッカー教室をやっているの、どうせだったら年の最後のほうで試合をしませんかということで集まり、10月に対抗戦をした。最初よりもすごく子ども達試合ができるようになった。最初はただボールを追っかけて行くだけだったのが、今はきちんと守る人と攻める人と分かれて役割分担をしており、やはり成長が見られる。

佐藤こども未来課長：運営については以上になるが、何か質問があれば。

北村委員：美唄市では、定員枠一杯で入所希望している方が入れないということはあるのか。

A：ピパの子保育園は一杯だが、先ほど説明した南美唄にある認定こども園にも枠があるし、ほかにへき地保育所がある。うちが先に埋まってしまうので、ほかに空きがあるところを紹介するというかたち。

A：待機児童は出ていない状況。

大谷委員：何か所かある保育所のうち1番新しい施設だと思うが、集中してここへ来たいということにはならないか。

A：定員150名のところ今のところ128名。去年も今年も人数は同じくらいで、集中しているといっても150名定員を超えるようなことにはなっていない。うちだけに集中しているわけではないと思う。

A：出生者数でいうと美唄はだんだん下がっている。150名の施設を造ったがこの先定員が満たなくなってくるとへき地や認定こども園をここ1つに集約するだろうということを考えているが、去年も今年もここへの入所希望の数としてはそんなに極端に減っているわけではないので、働きたいお母さん方も増えていると思う。

委員長：乳児保育は生後2か月から受付しているが、実態としてはいるのか。

本嶋園長：かなりいる。産休明けで入る。

加来議長：送迎はどの保育所もやっていないのか。

A：行っていない。

加来議長：運営状況についてはよろしいか。

(よろしいとの声あり)

佐藤こども未来課長：質問等無ければ、施設の中を順次下りながら見て行きたいと思う。

(5) 美唄市立ピパの子保育園の施設視察 11:15～11:38

(美唄市立ピパの子保育園の施設を視察)

(6) 研修お礼の挨拶 11:38

副委員長(北村光明)：(挨拶)